

# 第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

## ○全体的な趣旨・構成について

- ・3.11だからといって飾ったことではなくて、知事が普段から言っていることをベースに、県民、全国、世界に対するメッセージを考えるべき。
- ・短い文章の方がインパクトは強い。言葉の選び方は難しいが、上手く伝えやすいので、そういった点も頭の隅に置きながらまとめるべき。
- ・これまで9年間続けてきたメッセージは連歌みたいなもので、その都度、福島の歩みを示してきたそのもの。
- ・高齢者から子どもまで知事が見てるよというメッセージを発信していきたい。
- ・10年という数字を出すのであれば、今までの10年間を振り返って一回診断というか反省をして、新たにまた次の10年に向かって歩んでいきますというメッセージにすべき。
- ・支援する、しないじゃなく、一緒にやっていくという協働という、スタンスを少し変えたメッセージも良い。
- ・数字がすごく大事。これがずっと続いていき、何年後かに読み返した時に、あの時こうだったんだという振り返りができるような10年の一区切りだったら良い。福島は廃炉まできっちりメッセージの発信を続けるべき。
- ・去年はすごく前向きだった。昨年との温度差というものが逆に今回のメッセージに意味がある。メッセージは同じ形である程度ずっと続けていく中で、あとで振り返ると宝となる部分がある。
- ・委員の皆さんのご意見や県民の皆さんの皮膚感・温度感、そういった空気感を踏まえたメッセージにすることが今回重要。

## ○10年の受け止め等について

- ・構えていたほど特別な日として訪れるわけではなくて、普通の中であって、その中で「あ、10年経ったな」と静かに振り返る日。前向きなスタンスでその日をスタートするみたいなイメージが10年目の朝なのかな。そんなメッセージが上手くまとめられれば。
- ・とても10年で終わったようにはまったく思えないというか、これから何年も何年も闘っていかなければならない、そういったタイミング。東日本の被災地域に住んでいる人は特別な思いで迎えると思うが、そうでない地域の方々は普通の日、むしろ震災よりコロナがメインで、発信してもスルーしてしまうのではと、半分悔しい。
- ・当時子どもたちは、みんな夢のおりとはいかななくても、生き抜く力、生きていく力がついている。

- ・まだまだやっぱりいろんな課題を抱えている子たちもいる。新たな課題が顕在化しているということも感じる。
- ・10年経った時がゴールではない。廃炉まで40年と言われていて、やはり40分の10というところ。
- ・丸10年に向けて、今感じている思いの3つのキーワードは「軌跡・感謝・挑戦」。
- ・時計の針が10年経っても止まっている、それを冷静に受け止めようと努力されている姿を見て、何ともいえない気持ちになった。その場に行って感じることで全然違う。

## ○入れ込むべき内容等について

- ・いまだにつらい部分もあるんだというところはきちんと表現すべき。
- ・震災があったがゆえに非常に心が強くなっていたり、将来の希望が明確になっていたりという方たちもいっぱいいる。そういう人たちが福島県を支えるような、成長をしているんだというようなメッセージも加えていきたい。
- ・福島の経験をぜひ世の中の人に伝えていきたい、逆に福島だからこそ、そういう立場に立てるんだよという強みみたいなものが伝われば良い。
- ・放射性物質の処理というのはいまだ継続している。寄り添っているという姿を文章の中で出していきたい。
- ・放射性物質の除去がまだ終わっていないという、苦しんでいる陰の部分も入れ込み、陽の心も出さないといけない。
- ・食の良い面を地産地消で出していきたい。今は安心して食べられているよという部分も、親子で感じている非常に大事。(17字で奏でよう絆のふれあい支援事業の復興部門で最優秀賞をもらった作品を紹介)
- ・「家に帰るとせいせいするな」はすごく落ち着く良い言葉。
- ・中間貯蔵施設で家を無くされたり、これから新しい復興拠点になるから立ち退かないといけなかったり、自分が生まれたところに帰れない人たちがいる。そこにも想いを馳せてほしい。
- ・今年は全部コロナで吹っ飛んでしまうのかなと思って、福島県とどう結びつけたら我々の生きる力になるのか考えていきたい。
- ・10年経ったから支援が縮小されるんじゃないかと不安に思っている方もたくさんいると思うので、少し県民に向けての思いを強く伝えても良い。今回に限っては県民が手を取り合えるような温かな、しなやかなメッセージにしていくと今苦しい人たち、コロナで苦しい人たちにも伝わっていく。
- ・知事が普段声で発していただいている言葉がベスト。東日本大震災の頃に、こんなに辛いことがあるんだと思っていたが、10年経った時にコロナのような世界レベルのものがやってきた。福島だから言える言葉がある、そういう言葉を探せたら良い。

・コロナで、絆が弱まっている、むしろお互いがお互いを疑心暗鬼で、壁を作ってソーシャルディスタンスが心のディスタンスになっている。

## ○メッセージの発信について

- ・全国で風化と言われている中で、この10年というのは福島に注目してもらうチャンスでもあると捉えて、できるだけ多くの人にメッセージが届くような中身にすべき。
- ・メッセージの出し方として何か一工夫欲しい。
- ・SNSなどネット上で見るのが県外の方には届くのかなと考えると、ネット受けする見せ方や出し方も一つ、県外にアピールするためには必要。
- ・誰にこのメッセージを届けるのか、比較的県民が多かったと思うんですが、今年は10年なので県民にももちろん、県外の方にも世界にも向けないといけないことを考えると、メッセージを2本立てにしても良いのかな。
- ・メッセージはドンと新聞に出していただけたらありがたい。文章の解禁をもうちょっと早くしてほしい。
- ・県内だけではなくどうやって外に伝えるか考えてほしい。
- ・今一番心配しているのは風化。全国に向けての発信は間違いなく重要。風化を防ぐためのより新しい強い発信も必要。